

調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

道政上の重要課題や主要施策に関しての世論調査を実施し、道民の道政に対する意向や意識の的確な把握に努めるとともに、政策形成に反映させることを目的とする。

(2) 調査項目

- 1) 北海道のロゴマーク「試される大地 北海道」について
- 2) 新・北海道総合計画について
- 3) 人口問題について
- 4) エコアイランド北海道について
- 5) 遺伝子組換え作物等について
- 6) 振り込め詐欺をはじめとする特殊詐欺について

(3) 調査の方法

- | | |
|---------|------------------|
| 1) 調査地域 | 北海道全域 |
| 2) 調査対象 | 道内に居住する満20歳以上の個人 |
| 3) 標本数 | 1,900 サンプル |
| 4) 地点数 | 190 地点 |
| 5) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| 6) 調査方法 | 郵送配付、郵送回収 |
| 7) 調査期間 | 平成26年7月 |

(4) 調査実施機関

昇寿チャート株式会社

(5) 調査回収状況

標本数	1,900
有効回収数（率）	871（45.8%）

2 調査回答者の特性

区分	総数	比率
【総数】	871	100.0%
【圏域別】		
道南圏	86	9.9%
道央圏	531	61.0%
道北圏	89	10.2%
オホーツク圏	39	4.5%
十勝圏	44	5.1%
釧路・根室圏	48	5.5%
無回答	34	3.9%
【人口規模別】		
札幌市	325	37.3%
人口 10 万人以上の都市	210	24.1%
人口 10 万人未満の都市	138	15.8%
町村部	165	18.9%
無回答	33	3.8%
【性別】		
男性	405	46.5%
女性	431	49.5%
無回答	35	4.0%
【年代別】		
20～29 歳	36	4.1%
30～39 歳	101	11.6%
40～49 歳	173	19.9%
50～59 歳	206	23.7%
60～69 歳	254	29.2%
70 歳以上	65	7.5%
無回答	36	4.1%

区分	総数	比率
【職業別】		
自営業（農林漁業）	17	2.0%
自営業（商工サービス業）	61	7.0%
自由業	32	3.7%
事務職系	175	20.1%
労務職系	105	12.1%
主婦	231	26.5%
学生	3	0.3%
無職	119	13.7%
その他	84	9.6%
無回答	44	5.1%
【市町村居住年数別】		
1 年未満	9	1.0%
1～5 年未満	54	6.2%
5～10 年未満	40	4.6%
10～20 年未満	94	10.8%
20 年以上	644	73.9%
無回答	30	3.4%

注) 個々の比率（百分率）は、少数第 2 位を四捨五入した。このため、各区分における比率の合計が 100.0%にならない場合がある。

3 サンプリング

母集団	道内に居住する満20歳以上の個人
標本数	1,900 サンプル
地点数	190 地点
抽出方法	層化二段無作為抽出法

(1) 層化

① 北海道の市町村を、次の6圏域に分類した。

【道南圏】★函館市、北斗市、七飯町、八雲町、長万部町、江差町、乙部町

【道央圏】札幌市★江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、岩見沢市、美唄市、芦別市、三笠市、滝川市、砂川市、深川市、奈井江町、新十津川町、★小樽市、共和町、倶知安町、岩内町、余市町★苫小牧市、室蘭市、登別市、伊達市、白老町、洞爺湖町、むかわ町、日高町

【道北圏】★旭川市、士別市、名寄市、鷹栖町、東神楽町、当麻町、稚内市、留萌市、小平町、羽幌町

【オホーツク圏】★北見市、網走市、紋別市、美幌町、遠軽町、湧別町、滝上町

【十勝圏】★帯広市、音更町、幕別町、池田町、本別町、足寄町

【釧路・根室圏】★釧路市、浜中町、標茶町、弟子屈町、白糠町、根室市

注) ★印は、札幌市を除く人口10万人以上の都市

② 各圏域については、「札幌市」「人口10万人以上の都市」「人口10万人未満の都市」「町村部」と人口規模別に分類した。人口規模は、平成26年3月31日時点での住民基本台帳人口により分類した。

(2) 標本分配

調査対象が北海道内に居住する満20歳以上の個人であるため、平成26年3月2日時点の選挙人名簿登録者数を推定母集団とし、その大きさにより190の地点数を比例分配した。なお、各母集団は、住民基本台帳を抽出原簿として採用した。

(3) 抽出

① 第1次抽出単位となる調査地点（各市町村、条町丁字名別）の抽出

各層に配分した調査の地点数分、調査対象地区を抽出した。抽出に際しては、平成21年10月5日時点の合併市町村の動向を考慮し、「住民基本台帳人口」を基に各地点の住民基本台帳人口の累積度数を算出して、各層の総人口に対する累積占用率を算出し、調査地点数分乱数を発生させて、該当する190地区を抽出した。

② 第2次抽出単位となる調査対象者の抽出

対象者の抽出は、地点ごとに抽出間隔を算出し、住民基本台帳から等間隔に10人抽出し、調査標本1,900を抽出した。なお、抽出に当たっては、満20歳以上の個人であることに留意した。

$$\frac{\text{調査地点推定人口総数}}{10} = \text{抽出間隔}$$

(4) 抽出結果

圏域、人口規模ごとの標本数、調査地点数は次のとおりである。

地域	人口規模	住民基本台帳 人口数 (H26. 3. 31 現在)	選挙人名簿 登載者数 (H26. 3. 2 現在)	標本数	地点数
道南圏	人口 10 万人以上	271, 827	232, 779	100	10
	人口 10 万人未満	48, 009	39, 095	20	2
	町村部	136, 173	117, 231	50	5
道央圏	札幌市	1, 919, 684	1, 611, 546	670	67
	人口 10 万人以上	419, 021	352, 346	150	15
	人口 10 万人未満	702, 843	592, 250	250	25
	町村部	320, 567	273, 651	110	11
道北圏	人口 10 万人以上	347, 063	292, 963	120	12
	人口 10 万人未満	132, 909	112, 983	50	5
	町村部	152, 574	129, 214	50	5
オホーツク圏	人口 10 万人以上	122, 276	102, 929	40	4
	人口 10 万人未満	61, 118	51, 971	20	2
	町村部	113, 518	96, 374	40	4
十勝圏	人口 10 万人以上	168, 007	139, 805	60	6
	町村部	179, 896	148, 283	60	6
釧路・根室圏	人口 10 万人以上	178, 451	150, 941	60	6
	人口 10 万人未満	28, 047	23, 670	10	1
	町村部	114, 728	94, 945	40	4
合計		5, 416, 711	4, 562, 976	1, 900	190

4 調査地点一覧

圏域	抽出市町村		抽出地点	
道南圏	渡島総合振興局	函館市	千歳町	
			千代台町	
			戸倉町	
			富岡町	
			乃木町	
			八幡町	
			日浦町	
			日吉町	
			堀川町	
			本通	
		北斗市	公園通	
			昭和	
		七飯町	飯田町	
八雲町		相生町		
檜山振興局	長万部町	大町		
	江差町	朝日町		
	乙部町	館浦		
道央圏	石狩振興局	札幌市中央区	旭ヶ丘	
			大通西 26 丁目	
			南 2 条西 26 丁目	
			宮ヶ丘 2 丁目	
			北 3 条西 30 丁目	
			宮の森 2 条 2 丁目	
			南 8 条西 23 丁目	
			南 15 条西 19 丁目	
			札幌市北区	麻生町 2 丁目
				新琴似 12 条 3 丁目
				新琴似 12 条 5 丁目
				太平 3 条 1 丁目
				篠路 1 条 1 丁目
				拓北 6 条 3 丁目
	あいの里 3 条 1 丁目			
	南あいの里 7 丁目			
	北 30 条西 10 丁目			
	北 38 条西 8 丁目			

圏域	抽出市町村		抽出地点
道 央 圏	石狩振興局	札幌市東区	北 11 条東 1 丁目
			北 14 条東 1 丁目
			北 18 条東 2 丁目
			北 21 条東 6 丁目
			北 28 条東 12 丁目
			北 33 条東 17 丁目
			伏古 11 条 2 丁目
			東苗穂 11 条 1 丁目
			本町 1 条 9 丁目
		札幌市白石区	菊水元町 10 条 1 丁目
			菊水上町 3 条 1 丁目
			中央 2 条 5 丁目
			東札幌 5 条 3 丁目
			川北 5 条 1 丁目
			北郷 2 条 2 丁目
			北郷 9 条 7 丁目
		札幌市豊平区	豊平 1 条 1 丁目
			豊平 4 条 3 丁目
			豊平 5 条 8 丁目
			旭町 3 丁目
			水車町 4 丁目
			平岸 3 条 2 丁目
			美園 5 条 8 丁目
			月寒東 2 条 4 丁目
		札幌市南区	澄川 5 条 4 丁目
			常盤 1 条 1 丁目
			真駒内泉町 3 丁目
			真駒内柏丘 4 丁目
			石山 2 条 2 丁目
		札幌市西区	二十四軒 1 条 2 丁目
山の手 4 条 1 丁目			
西野 1 条 2 丁目			
西野 10 条 8 丁目			
西町北 20 丁目			
西町南 21 丁目			

圏域	抽出市町村	抽出地点	
道央圏	石狩振興局	札幌市西区	発寒 6 条 9 丁目
		札幌市厚別区	もみじ台北 2 丁目
			厚別東 1 条 1 丁目
			厚別西 4 条 2 丁目
			厚別中央 3 条 1 丁目
		札幌市手稲区	星置 3 条 9 丁目
			曙 2 条 5 丁目
			明日風 1 丁目
			手稲本町 1 条 3 丁目
			前田 2 条 7 丁目
		札幌市清田区	平岡 8 条 2 丁目
			北野 5 条 5 丁目
			清田 4 条 2 丁目
			真栄 5 条 1 丁目
		江別市	弥生町
			幸町
			錦町
			野幌代々木町
		千歳市	未広 5 丁目
			高台 2 丁目
	富丘 3 丁目		
	恵庭市	福住町	
		黄金南	
	北広島市	北進町	
		広葉町	
	石狩市	花川北 2 条	
		樽川 3 条	
当別町	北栄町		
空知総合振興局	岩見沢市	美園 6 条	
		8 条東	
		南町 6 条	
	美唄市	東 3 条北 2	
	芦別市	北 6 条西 3 丁目	
	三笠市	高美町	
	滝川市	緑町 2 丁目	

圏域	抽出市町村		抽出地点
道央圏	空知総合振興局	滝川市	大町3丁目
		砂川市	吉野1条北
		深川市	音江町2丁目
		奈井江町	奈井江
		新十津川町	弥生
	後志総合振興局	小樽市	新富町
			潮見台2丁目
			緑町1丁目
			稲穂4丁目
			長橋5丁目
		共和町	幌似
		倶知安町	南4条東
		岩内町	相生
	余市町	大川町	
	胆振総合振興局	苫小牧市	旭町1丁目
			汐見町2丁目
			表町3丁目
			幸町2丁目
			弥生町2丁目
			光洋町3丁目
		室蘭市	中島町2丁目
			日の出町3丁目
			高砂町2丁目
		登別市	中央町7丁目
			常盤町2丁目
		伊達市	旭町
		白老町	大町
洞爺湖町		栄町	
むかわ町	花園		
日高振興局	日高町	緑町	
道北圏	上川総合振興局	旭川市	神居2条
			曙1条7丁目
			亀吉1条2丁目
			忠和5条7丁目
			住吉4条

圏域	抽出市町村		抽出地点
道北圏	上川総合振興局	旭川市	大町 2 条 13 丁目
			旭町 2 条 20 丁目
			北門町 21 丁目
			錦町 21 丁目
			緑町 23 丁目
			川端町 5 条 10 丁目
			春光 6 条 3 丁目
		士別市	東 10 条
		名寄市	東 1 条北 2 丁目
		鷹栖町	南 1 条 3 丁目
	東神楽町	北 1 条西 1 丁目	
	当麻町	4 条西	
	宗谷総合振興局	稚内市	港 3 丁目
			大黒 1 丁目
	留萌振興局	留萌市	末広町 3 丁目
小平町		字小平町	
羽幌町		南町	
オホーツク圏	オホーツク総合振興局	北見市	桜町 2 丁目
			田端町
			山下町 4 丁目
			栄町 1 丁目
		網走市	南 5 条東
		紋別市	花園町 5 丁目
		美幌町	三橋町
		遠軽町	宮前町
		湧別町	曙町
		滝上町	市街地 5 条通
十勝圏	十勝総合振興局	帯広市	柏林台西町
			自由が丘 2 丁目
			西 6 条南
			東 4 条南
			川西町
			新町東
	音更町	桜が丘	
		大通 12 丁目	

圏域	抽出市町村		抽出地点
十勝圏	十勝総合振興局	幕別町	錦町
		池田町	旭町5丁目
		本別町	朝日町
		足寄町	南6条
釧路・根室圏	釧路総合振興局	釧路市	川北町
			新富町
			双葉町
			春日町
			南浜町
			豊川町
		浜中町	霧多布東3条
		標茶町	常盤
		弟子屈町	朝日
	白糠町	東1条北3丁目	
根室振興局	根室市	常盤町	

5 この報告書の見方

- (1) 回答率（各回答の百分率）は小数第2位を四捨五入した。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 設問説明文にて複数の回答を求めているものには、2つ以上の回答を求めているものと、回答数に制限を設けているものがあり、いずれもその百分率の合計は100.0%を超える場合がある。
- (3) この調査は、標本調査であるため、全数調査の結果（真の値）から一定の範囲内で離れていることがある。これを標本誤差といい、層化二段無作為抽出の場合、信頼度95%のとき次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上記の式により、回答者数（n）、及び回答比率（P）ごとに信頼度95%の標本誤差を計算すると、おおよそ次のとおりとなる。

回答比率(P) 回答者数(n)	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
871	±2.88%	±3.83%	±4.39%	±4.66%	±4.79%
500	±3.79%	±5.06%	±5.80%	±6.20%	±6.32%
300	±4.90%	±6.53%	±7.48%	±8.00%	±8.16%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数（n）が871で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差は95%の信頼度で、±4.66%以内（55.34～64.66%）である」とみることができる。

- (4) 圏域別（道南、道央、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室）の該当市町村については、別途「4 調査地点一覧」（P5～P10）に記載している。
- (5) 設問ごとの解説は、回答数の多かった上位3項目を【全体】に記載し、このうち上位2項目について、【圏域別】【人口規模別】【性別】【年代別】【職種別】【居住年数別】の種別による状況を記載した。